第２学年国語科学習指導案

１ 単元名

お気に入りの本をしょうかいしよう
～本やさんになって、本のブースをつくろう～

２ 単元の目標

◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。　（知識及び技能（３）エ）
○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
（思考力・判断力・表現力等Ｃ（１）イ）
○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
（思考力・判断力・表現力等Ｃ（１）カ）
○進んで読書に親しんだり、作品に対する思いが伝わるようにお気に入りの本を紹介したりしようとする。　（学びに向かう力・人間性等）

３ 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 （（３）エ）	「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 （Ｃ（１）イ） 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 （Ｃ（１）カ）	進んで読書に親しんだり、作品に対する思いが伝わるようにお気に入りの本を紹介したりしようとしている。

４ 単元について

(1)主となる言語活動と扱う教材

本単元は、お気に入りの本を再読しながら感想を紹介カードにまとめたり、ブースを作ったりし、それを友達と紹介し合う言語活動を通して、新学習指導要領「知識及び技能」の「読書に親しみ、いろいろな本があることを知」り、「Ｃ　読むこと」の「共有カ　文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること」の資質・能力の育成をめざす。

第１学年及び第２学年では、文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、感じたことや気付いたことを分かち合ったり、認めたりすることが求められる。そこで本単元では、自分のお気に入りの本を選び、その本のブースとポップ風な紹介カードを作り、互いに読み合うという言語活動を設定する。自分のお気に入りのところを見付けて紹介するために、場面の様子に着目して想像を広げたり、文章の中の重要な語や文を考えたりしながら繰り返し読む能力の育成に繋げた

い。

また、昨年度の千葉市読書量調査の結果は２週間・４週間共に平均読書冊数が前年度より減少している。読書量の向上が課題となっている。そのため、この時期の子供たちの本を読む機会を増やすことを目的とした。また、いろいろな本があることとその面白さを知り、日々の読書の幅を広げることも大切であると考えた。さらに第３学年からは主に総合的な学習の時間等で図鑑や科学読み物など、物語以外の本を読む機会も増えてくる。読書の幅が広がって日々の読書活動が充実すれば、表紙や目次から書かれている内容を予想したり、本の内容の大体を捉えたりして目的に応じた選書ができるようになることが期待できると考える。そこで、本単元では授業中に本を読む時間を確保し、単元を通して多くの本に触れられる機会を作る。そしていろいろな本に触れられるよう、選書の仕方を工夫できるような手立てや、本の内容を捉えて選ぶことが難しい児童に対する支援を行っていきたい。

(2)学習を通して身に付けさせたい力とその手立て

【身に付けさせたい力について】

本単元では、本の内容に関連付けて選書し、本のブースという形で紹介し合う言語活動を通して、新学習指導要領「知識及び技能」の「読書に親しみ、いろいろな本があることを知」り、「C読むこと」の「共有カ　文章を読んで感じたことや分かったことを共有する」力を高めたいと考える。

第１時では、言語活動を知り、学習の見通しをもつ力を育てるとともに、学習課題に興味関心をもつことを目的とする。自身の読書経験を振り返ったり、本学級の貸し出し状況を見たりする活動を通して、「友達にお気に入りの本を紹介して、いろいろな本を知ってもらいたい」と思うきっかけづくりをする。そして、教師が作った「本屋さんのブース」の見本から活動のイメージをもち、自分が本屋さんになったつもりで友達にお気に入りの本を紹介するというゴールを確かめ、意欲をもって学習を進めることができるようにする。

第２時～３時では、文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、感じたことや気付いたことを相手に分かりやすく表現する力を高める。紹介カードを書くには、本の内容を捉え、「題名」「作者」「好きなところ」の３つの事柄を入れることを確認し、共通教材『ぶたぶたくんのおかいもの』（土方久功（1985）福音館書店）でその書き方を学習する。その際、同じ話を読んでも読者によって感想が違うことに気付き、紹介し合うことの面白さを感じさせたい。

第４時～７時では、いろいろな本を知ること、友達と感じたことや分かったことを共有する力を育成する。お気に入りの本を２～３冊選ぶ過程では、必ず異なる分類の本も取り入れるようルールを設け、様々な本を手に取り、いろいろな本があることを知ることができるようにする。さらに、内容を関連付けて選書することを指導することで、本の内容の大体を捉えて選書する能力の育成をねらう。そして友達と感じたことや分かったことを共有することで、自分のお気に入りの本やその好きなところを相手に知ってもらう喜びや、自分では気付かなかった新たな発見があることの楽しさを感じて欲しい。また、友達の選んだ本を読むことで、様々な本を知り、今後の読書活動が幅広いものとなることを期待したい。

【手立てについて】

①興味関心をもてる課題設定の工夫

児童がお気に入りの本の紹介カードを書く活動に興味関心をもてるように、本屋になりきって自分だけのブースを作り、友達に紹介するというゴールを目指す。本学級の児童は「ごっこ遊び」が好きで、休み時間には友達とごっこ遊びをして過ごしている児童も多いため、本屋になりきることで意欲的に活動に取り組めると考える。そして紹介カードやブースを作る過程で何度も再読し、本を読み味わう力の育成も目指していく。

グループ活動ではなく、自分一人でブースを作ることによって、自分らしさを発揮して活動に取り組み、主体性が成長することを期待したい。さらに、本学級の児童は友達の作品を鑑賞することに対しても意欲的に取り組む。紹介文だけではなく、ブースを作ることで、意欲的に活動に取り組み、友達のブースへ興味をもち、互いの本への関心を高めることができると考えた。

②選書の工夫

読書に親しみ、いろいろな本があることを知るための手立てとして、選ぶお気に入りの本を２～３冊とし、必ず異なる分類の本を取り入れるようにルールを設定する。このルール作りは、第一時で本学級の分類別貸し出し状況から読む本に偏りがあるということを認識させ、本を紹介していろいろな分類の本を読んでもらおうという目的をもつことで、児童と一緒に行っていく。さらに、本のブースには関連のある本が並んでいることが多いということに気付かせ、関連付けて選書するよう指導をする。そうすることで、選ぶ際に本の内容の大体を捉える必要性が生まれると考える。その際、関連する内容はそれぞれの児童の中で明確になっていればよいものとする。本の表紙や目次、絵や写真など、本の内容を予想するヒントは数多く存在することに気付かせ、目星を付けて本を選んで読むことで、本の内容の大体を捉えて選書する能力の育成をねらう。

③本を読む活動

前述したように、昨年度の千葉市読書量調査の結果、平均読書冊数が前年度より減少しており、読書量の向上が課題である。特に昨年度からギガタブが導入され、休み時間の過ごし方の１つとしてギガタブの使用が主流になりつつあることや、放課後もゲームや動画配信サービスなど、児童が夢中になる多様なデジタルコンテンツがあることもその要因の一つであると考える。そのような現状を踏まえ、授業中に読書の時間を確保することは重要であると考える。お気に入りの本を選ぶ過程はもちろんのこと、友達とブースを見合う活動でも互いの本を読む時間を確保し、単元を通して多くの本に触れられる機会を作る。友達の選んだ本から新たな本と出会ったり、自分が選んだお気に入りの本を友達が読んでくれたことに喜びを感じたりすることで、今後の読書生活が充実したものになることを期待したい。

④共通教材『ぶたぶたくんのおかいもの』

同じ話を読んでも読者によって感想が違うことに気付き、紹介し合うことの面白さを感じさせるため、第３時の共通教材として『ぶたぶたくんのおかいもの』を扱う。『ぶたぶたくんのおかいもの』は、ぶたぶたくんという主人公が、初めてのおつかいを頼まれて、途中友達と出会いながら楽

しくおつかいをするという可愛らしい内容であり、第２学年の児童が読み聞かせで内容を把握しやすい。さらにこの本は、物語の内容以外にも、児童が面白いと感じるであろうポイントが多く存在する。一つ目が、登場人物が皆個性的という点である。いつも「ぶたぶた」ばかり言っていてお母さんまでもが本当の名前を忘れてしまった主人公ぶたぶたくん。パン屋のにこにこおじさんに、八百屋の早口お姉さん、お菓子屋のゆっくりおばあさん。それぞれどのような表情や話口調なのか考えるだけで想像が広がる登場人物ばかりである。二つ目が、ぶたぶたくん達が買った食べ物がどれも魅力的という点である。黄色い箱のキャラメルやかあこちゃんが買ったチョコレート、紙に包んでもらったお煎餅。そして、「かおつきぱんの　じょうとうぱん」という聞きなれない不思議なパン。誰もが一度は子供の頃、「この本のこれが食べてみたい」と思う体験をしてきたと思うが、そんなふうに思える食べ物がいくつも登場するのも魅力である。三つ目が、同じ音が繰り返される点である。ぶたぶたくん、かあこちゃん、こぐまくんは３人で「ぶたぶた　かあこお　くまくま　どたじた　どたあん　ばたん」と言いながら歩く。普段の読み聞かせの様子からも、繰り返される音を楽しんでいる児童は多く、児童にとって楽しい場面の一つになると考える。

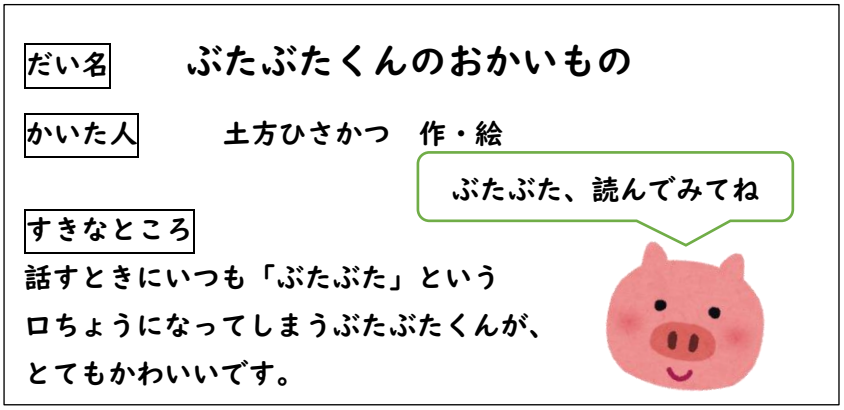
このように、児童が面白いと感じるであろうポイントが物語の内容以外にも含まれることで、日々の授業で物語のお気に入りの場面がなかなか思い浮かばない児童にとっても、書きやすい教材であると考える。そして、その場面や友達と共有することで、読者によって捉え方が違うことに気付き、紹介し合うことの面白さを感じさせたい。

(3)単元を支える言語活動

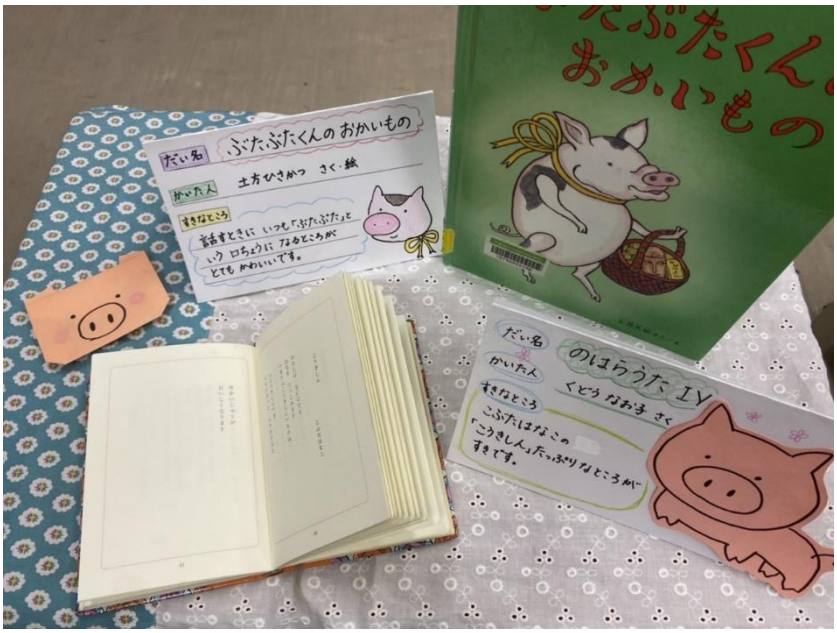
本単元では、お気に入りの本を選び、本屋さんになりきってそのブースを作り、友達と紹介し合うという言語活動を行う。本に関連したブースを作り、そこにおすすめのポイントをまとめたポップ風の紹介カードを掲示する。本屋さんになりきって友達と紹介し合うという目的をもつことで、楽しんで活動に取り組めると考える。また、ブースや紹介カードを作るために、本を繰り返し読んで想像を広げたり、自分のお気に入りのところを探したりするなど、本を味わう姿が見られると考える。

友達のブースを見る際に、本を読む時間を取ることで、いろいろな本に触れる機会を増やす。さらに互いに交流することで、自分のお気に入りの本を読んでもらう喜び、その感想を共有する楽しさを感じさせ、今後の読書活動の楽しみを増やしていきたい。

[紹介カード例]



[ブース例]



・土方久功.ぶたぶたくんのおかいもの.
福音館書店,1985,28P.

・工藤直子.のはらうたIV.
童話屋,2000,153P.

5 児童の実態について

（実態を受けて）本単元では、「お気に入りの本を選び、紹介カードを書いて友達と紹介し合う」という言語活動を位置付けた。この言語活動には主に２つの目的がある。

一つ目が、児童がいろいろな本に触れ、読書の幅を広げることである。前述したように、多くの児童は絵本や学習漫画など、一部のジャンルばかりを好んで読んでいる傾向がある。そこでお気に入りの本には必ず異なる分類の本を１冊入れること、友達と紹介し合う活動では、互いの本を読み合うことによって、これまであまり読んでこなかったジャンルの本と出会い、読書の幅を広げさせたい。さらに、友達との交流を通して、自分の勧めた本を読んでもらう喜びや、感想を共有する楽しさを味わって欲しい。

二つ目が、本を繰り返し読んでその内容を捉え、良さを味わうことである。絵を楽しむことも絵本を読む上で大切なことではあるが、文章から場面の様子を想像したり、重要な語や文を考えたりしながら読むことの資質・能力の育成は、学習指導要領の「読むこと」にも位置付けられており、身に付ける必要がある。紹介カードを書く過程で本を繰り返し読んで内容を捉え、自分の感想をもてるように学習を進めていきたい。そして今後文章を読んでそのよさを味わい、充実した読書活動になることを期待したい。

６ 指導計画(全7時間)

時	学習活動 予想される児童の反応	指導や支援の手立て ◇評価［評価観点］(評価方法)
1	○これまでに読んだ本を振り返る。 ・絵本や、おばけずかん、サバイバルをよく読んだよ。 ・みんな同じような本ばかり読んでいるね。 ○教師による本の紹介を聞き、「自分だけの本のブース」を作って、お気に入りの本を紹介しようという学習のめあてをもち、学習計画を立てる。 ・どうやって進めていけばいいのだろう。	・本学級の分類別貸し出し状況を一緒に提示することで、同じジャンルや学習漫画ばかり読んでいることを実感し、友達にお気に入りの本を紹介して、いろいろな本を知ってもらいたいというきっかけづくりをする。 ・教師が作った本のブースのモデルと紹介カードを見て、本屋さんになって本を紹介しようという意欲を高めさせる。 ◇学習の見通しをもち、進んで本の紹介活動に取り組もうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度①] (観察・発言)
2	○教師のお気に入りの本の紹介を思い出して、どんなことを伝えているか考えながら紹介メモの書き方を確かめる。 ・本の題名と書いた人が書かれていたよ。 ・どんなところが好きか書かれていたよ。 ○本のブース作りの工夫を確かめる。 ・似ているところがある本が並べられているね。 ・本の内容と関係のある飾り付けになっているよ。 ・ブースに並べられている本には、違う分類の本が入っているね。	・教師の作った紹介文を読みながら、紹介文を書くには、大体の内容を捉え、「題名」「作者」「好きなところ」の３つの事柄を入れることを確認させる。 ・本のブースには関連のある本が選ばれていること、本の内容に合ったディスプレイになっていることを気付かせる。 ◇紹介文を書くために大切な事柄について考えている。 [思考・判断・表現①] (観察・記述)
3	○「ぶたぶたくんのおかいもの」の読み聞かせを聞き、紹介カードを書く。 ○書いたカードをもとに、グループで「ぶたぶたくんのおかいもの」を紹介し合う。 ・登場人物は、ぶたぶたくん、かあこちゃん、こぐまくん‥‥でした。 ・早口言葉の八百屋のお姉さんが面白かったよ。 ・友達は、私とは違うところが面白いと感	・題名、著者、登場人物、あらすじなどの内容の大体を掴ませ、感想をもたせる。 ・同じ話を読んでも、読者によって感想が違うことに気付くようにする。 ◇前時で確認した紹介カードを書くために大切な事柄を理解している。 [知識・技能①] (観察・記述) ◇物語を読んで内容を掴んだり、好きなところを見付けたりして紹介カードを書いている。 [思考・判断・表現②]

	じたみたい。	（記述）
4 自分で選んだお気に入りの本2～3冊を並行読書	○自分のお気に入りの本を２～３冊選ぶ。１冊は千葉市中央図書館団体貸し出しの中から選ぶ。 ・私は、前に読み聞かせで読んでもらった本がお気に入りだから、それを選ぼうかな。 ・読んだことのない本も読んでみようかな。 ・この物語の主人公が頭のいいカラスだから、カラスについての本を選んで、ブースに並べようかな。 ○選び終えた児童は本を読み、選んだ本の題名と読んでみて思ったことを紹介カードに書く。	・第２時の学習を振り返り、本の内容を関連付けて選ばせる。 ・いろいろな本を知ってもらおうというめあてを想起し、必ず異なる分類の本を１冊以上選ぶようにさせる。 ・団体貸し出しの本は、『ひとりでよめたよ！幼年文学おすすめブックガイド 200』（大阪国際部児童文学振興財団,宮川健郎,土井安子（2019）評論社）に記載されている本を中心とし、初めて触れる本でも読みやすく、楽しめるような本を図書館指導員と教師が選書する。 ◇これまで読んだ本や見つけた本の中から、みんなに紹介したい本を選んでいる。 [思考・判断・表現③] （観察・記述） ◇自分の選んだ本を読んで、面白いところや好きなところを見付けようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度②] （観察・記述）
5	○自分の選んだ本について、本の紹介カードを書く。 ・物語の登場人物を思い出すために、もう一度本を読んでみよう。 ・私はこの本の挿絵が綺麗なところが好きだから書いておこう。	・本のお気に入りのところを見付ける観点や気持ちを表す言葉を提示することで、自分の感想が入った紹介カードになるようにする。 ・自分の選んだ本から紹介メモを作ることが難しい児童には、教師が読み聞かせをしながら内容を捉えさせる。 ◇場面の様子に着目して想像を広げたり、文章の中の重要な語や文を考えたりしながら繰り返し本を読み、好きなところを見付けて紹介カードを書いている。[思考・判断・表現④] （観察・記述）
6 本時	○友達とお互いにお気に入りの本のブースを紹介し、選んだ本と紹介文を読み合う。 ・この本、表紙が好きではなかったから読	・一人当たりのブースを見る時間を 10 分設定することで、友達の紹介したい本を読む時間を取り、本に触れる機会を増やす。 ・時間内に友達のお気に入りの本や紹介文の内

	んだことなかったけど、意外と面白いな。 ・友達が、自分のお気に入りの本を読んでくれている。ドキドキするけど嬉しいな。 ○友達の紹介で一番お気に入りの本を決め、その理由をワークシートに書いて振り返りをする。	容を捉えることが難しい児童には、教師が一緒に読むことで大体の内容を掴ませる。 ◇友達の本の紹介カードを読んで、いろいろな本があることを知ることができる。 [知識・技能②] （観察・記述）
7	○前時の振り返りを基に、友達の本で面白かったところを伝え合う。 ・読んだことのない本だったけど、とっても面白かったです。 ・紹介カードにも書かれていたように、私もこの本を読んで、△△のところが面白いと感じました。	・感想を伝え合ったり質問したりすることで、読書への意欲を高めさせる。 ・興味をもった本の題名だけでなく、なぜ興味をもったか、理由も言わせるようにすることで、発表を聞いている児童の読書意欲を喚起させる。 ◇選んだ本やその紹介カードを読み合う活動を通して、感じたことや分かったことを共有している。 [思考・判断・表現⑤] （観察・発言）
友達のお気に入りの本を並行読書	○単元の学習を振り返る。 ・人に本をおすすめするのは難しかったけど、お互いにいろいろな本があることを知ることができてよかったです。 ・３年生になるまでに、もっとたくさんの種類の本を読んでみたいです。 ・今回初めて世界の国について書かれている本を読んで面白かったので、これからも読んでみたいと思いました。 ○時間があったら、前時で読み終えられなかった本や、見ることのできなかったブースを見る。	・第３学年では総合的な学習の時間などで９類以外の本を読む機会が増えることを伝え、これからもいろいろな本を読んでみようとする意欲を高めさせる。 ・お気に入りの本と紹介カードは、しばらくの間教室後方に展示し、朝自習や休み時間など手に取って読み合えるようにする。 ◇これまでの学習を振り返り、これからの読書活動に活かそうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度③] （発言・記述）

7　本時の目標と展開（6／7）

（1）本時の目標

○友達の本の紹介文を読んで、いろいろな本があることを知ることができる。

（知識及び技能（3）エ）

（2）展開

学習活動 予想される児童の反応	指導や支援の手立て ◇評価［評価観点］（評価方法）
1　前時を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。	・前時までに作った本のブースと紹介カードを想起し、今日はそれを互いに見合い、選んだ本を読み合うというめあてを確認させる。
友だちとしょうかいカードやお気に入りの本を読み合って、いろいろな本を知ろう。	
2　2人組を作り、お互いにお気に入りの本のブースを紹介し、選んだ本と紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 ○一人当たり 10 分間､紹介文とお気に入りの本を読み合い、感想を伝え合う。 ○2回程､人を替え､再び 10 分間紹介文と本を読み合い、感想を伝え合う。 ・この本、表紙が好きではなかったから読んだことなかったけど、意外と面白いな。 ・友達が、自分のお気に入りの本を読んでくれている。ドキドキするけど嬉しいな。	・グループを指定し、順番に読み合うことで、全員が本のブースを見てもらい、紹介カードを読んでもらえるようにする。 ・一人当たりのブースを見る時間を 10 分設定することで、友達の紹介したい本を読む時間を取り、本に触れる機会を増やす。 ・よかったところや質問したいところを中心にメモを取らせることで、読み終えた後スムーズに感想を書けるようにする。 ・時間内に友達のお気に入りの本や紹介文の内容を捉えることが難しい児童には、教師が一緒に読むことで大体の内容を掴ませる。
3　本時の学習の振り返りをする。 ○友達の紹介で一番お気に入りの本を決め、その理由をワークシートに書いて振り返りをする。 ・今日初めて知った本は､『しずくのぼうけん』です。他の水についての本は写真だったのに、可愛い絵で水について書いてあって面白かったからです。(A) ・今日一番面白かった本は『おおきな木』です。木とぼうやが仲良しで、僕もあんなふうに木と遊びたいと思ったからです。(B)	◇友達の本の紹介文を読んで、いろいろな本があることを知ることができる。［知識・技能②］ （観察・記述） 評価規準 A：友達の紹介から、いろいろな本があることを知り、書かれ方にも違いがあることを知ることができる。 B:友達の紹介から、いろいろな本があることを知ることができている。 C:いろいろな本を知ることができていない。

[振り返りワークシート]

友だちとしょうかいカードやお気に入りの本を読み合って、いろいろな本を知ろう。

名前（　　）

○今日の学しゅうを◎○△でふりかえろう

・今日はじめて知った本があった［　　］

・ともだちのしょうかいを聞いて、いろいろな分るいの本を読んでみたくなった［　　］

○今日のお気に入りの本

○りゆう